

横堀共同墓地奪還！二期年内着工阻止！9.6三里塚へ

「本部」革マル反動分子を解体一掃し、告訴処分攻撃粉砕！二期着工阻止の今秋総決起を勝ちとせよ！

夏草繁れるこの横堀共同墓地に、今、全国の叩く人々の目が注がれている。

この地に生える草一本も、雑木一本も敵に渡してなるものか、と今改めて決意する。碑に刻まれた明治三十六年南堀の歴史は、八十年というわずかな年月の中で空港によって今この地から奪い去ろうとしている。

一振りの鍬からもう一人の鍬握ぎる手を、更にもう二つの鍬を増やし、働くことの大切さと喜びを、生きるための努力を、南堀の歴史は、人々に教えたであらう。

しかし今、我らの敵、政府公団は、南堀の中で、叩き、生き抜いてきた人々の歴史を、そのなきからを、一つ二つこの地から奪い去ろうとしている。

公団よ！ お前たちにこれを渡してなるものか。お前らにこれをさゆらせてなるものか。我々横堀部落の反対同盟員は、お前らのうす汚れた手で掘り返された横堀南堀の歴史を、再びここから創り出す。その第一歩を先日踏み出した。墓地奪還・二期阻止の大立て看板として裁判での叩きに。もうこれ以上、敵に土地は渡さない。

いや、我々が失ってきたものを、一つ一つ今から逆に奪い返さねばならない。全国から集まった全ての叩く人々の力で、一人一人の部落の民の創意と工夫で。そしてその力を反対同盟全体の力へと推し進めよう。

一九八一年八月十三日

横堀反対同盟

横堀墓地内集会
（熱田誠さんの発言より）

「バアちゃんには『空港を一生憎む』と死ぬまで言い続けた。

そのバアちゃんを埋めた墓地を公団にとられるなんてしのない、必ず奪い返さねば」と熱田一さん（反対同盟副行動隊長）。

バアちゃん——熱田副行動隊長の母堂、故熱田すいさんは今年一月、82才で亡くなるまで空港反対のハチマキをはなさなかった。小柄でキビキビした陽気なすいさんは支援の学生を孫のようにかわいがった。倒れるまで老人行動隊の柱として

岩山記念館での坐り込みに通い続けたすいさんは、今、その体を横堀の墓地に横たえ、死してなお、空港を阻んでいる。横堀共同墓地は敷地内C滑走路予定地をブツ切る拠点であり、何よりも土に生きた土に帰る農民の心の砦でもある。『日刊』No.827(8/22号)で既報のように、七月三十一日塩川運輸相一石田

千葉県知事の会談。二期工事強行宣言のもとで、公団は、このような全く不法不当な墓どろぼうの暴挙までやって、二期強行を狙っているのだ。断じて許すな！

二期攻撃そのものとしてある、権力・当局革マルの「告訴処分攻撃」を三里塚闘争の大爆発で粉砕しよう。9.6に決起しよう。

9.6三里塚現地集会（反対同盟主催）
12時30分、横堀公民館前

九月六日10時成田運輸区集合。



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

日刊 動労千葉

81.8.31

No.833

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（会衆）四三三二・七二〇七